

昭和46年卒（16回生）第5回学年同窓会の開催



16回生学年同窓会幹事 伊藤 義人

1. はじめに

コロナ禍が3年にも渡り、同窓会活動も大きな制約を受けてきました。中村高校16回生の学年同窓会は、卒業後30年を契機にして平成13年（2001）3月25日にルブラ王山で第1回が実施されました。その後第4回まで開催され、第5回を令和2年（2020）5月2日にメルパルク名古屋で開催するため予約をしました。

しかし、コロナ禍で開催できず、キャンセル料の交渉などで大変でしたが、令和6年5月26日にやっとメルパルク名古屋で第5回学年同窓会が開催されました。ホテル利用料金がコロナ禍後は、高止まりして会費を1万円とせざるを得ず、一部の同期生からは高すぎて参加できないというお叱りを受けました。それでも参加者は、56名となり、303組担任の多湖実松先生にもご参加いただき、盛況の裡に開催できました。

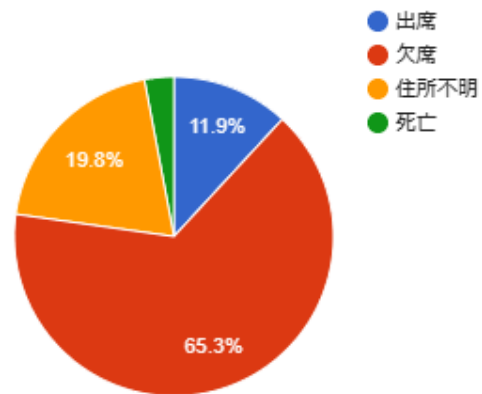
2. 学年同窓会開催の経緯

学年同窓会は、3階カトレアの間で、11:30から2時間半行われました。最初は、クラス別に立食形式の各テーブルについてもらいました。司会の鈴木忠さんの開会宣言から始まり、まずスライドを用いて私から、中村高校と同窓会（中村会）の現状を説明しました。同窓会による部室改築への協力についても報告しました。これまでの第1回から第4回までの開催の経緯も説明しました。

今回の開催案内は、同期生469名の中で、E-mailで79名、往復はがきで244名でした。

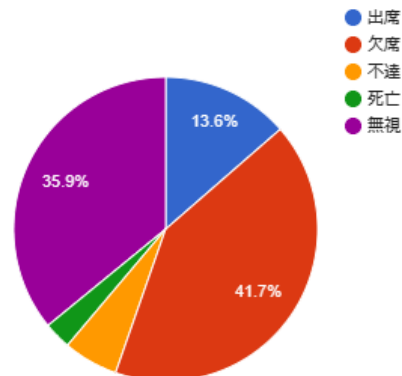
ごく一部は電話での連絡もしました。図一1に示しますように、参加者は11.9%でしたが、中学校や高校では、ごく普通の参加割合のようです。

出席率等



図一1 参加者割合

往復はがき回答率



図一2 往復はがき回答率

参加された人達からは、大変よかったと感謝されました。しかし、図一2に示しますように往復はがきによる回答において、90名(35.9%)の人からは、返信ハガキによる回答がなく、この種の会に対する関心の無い人も多いことが明らかになりました。往復はがきの経費や手間を考えると、欠席に○を打って回答することさえ拒否（無視）されたことには多少ショックでした。

3. 学年同窓会

開催の経緯の後で、多湖実松先生にご挨拶をいただき、合わせて乾杯の音頭もっていただきました。健康年齢を長引かせて勝ち組になりましょうという趣旨の挨拶でした。

その後、長い時間の楽しい懇談をしました。懇談中には、連続スライドで、これまでの4回の学年同窓会の写真と卒業アルバムを映しました。懇談の途中で、このスライドに見入る人達もいました。

13:30過ぎに、応援歌と校歌を皆で合唱しました。中村高校の50周年記念で制作したCDから応援歌と校歌をバックで流し、歌詞もスライドで映しましたので、スムーズに歌えました。

その後、司会者からこの学年同窓会を今後どうするかの間いかけがされました。事前打ち合わせでは、学年同窓会自体の開催は困難（会費高騰と多大な手間）というものでしたが、結局3年後（2027年）に第6回を開催することになりました。

最後に、プロ級の腕を持つ古橋智明さんの指揮の下で集合記念写真を撮って会を終了しました。



図一3 懇談



2024年5月26日 メルバルク名古屋

図一4 記念の集合写真

4. おわりに

卒業生への連絡は、大変難しいものがあります。E-mailを日常的に使っている人は意外に少なく、往復はがきへの回答も1/3程度は無視されました。同窓会には強制的に参加してもらうつもりは全くありませんが、住所変更が反映できず連絡が届かないという事例もあり、参加したい人に如何にうまく情報を届けるのが課題です。クラス幹事がうまく機能するとよいですが、クラス幹事の中でも温度差があります。

参加をすれば、懐かしく楽しい話しができて、是非とも継続的に開催してほしいという強い要望は出ますが、世話をする個人やグループは出てこないのが現状です。

なお、今回の学年同窓会の準備に村上里美さんに大変お世話になりました。ここに深謝いたします。